



岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン (貯水率100%)

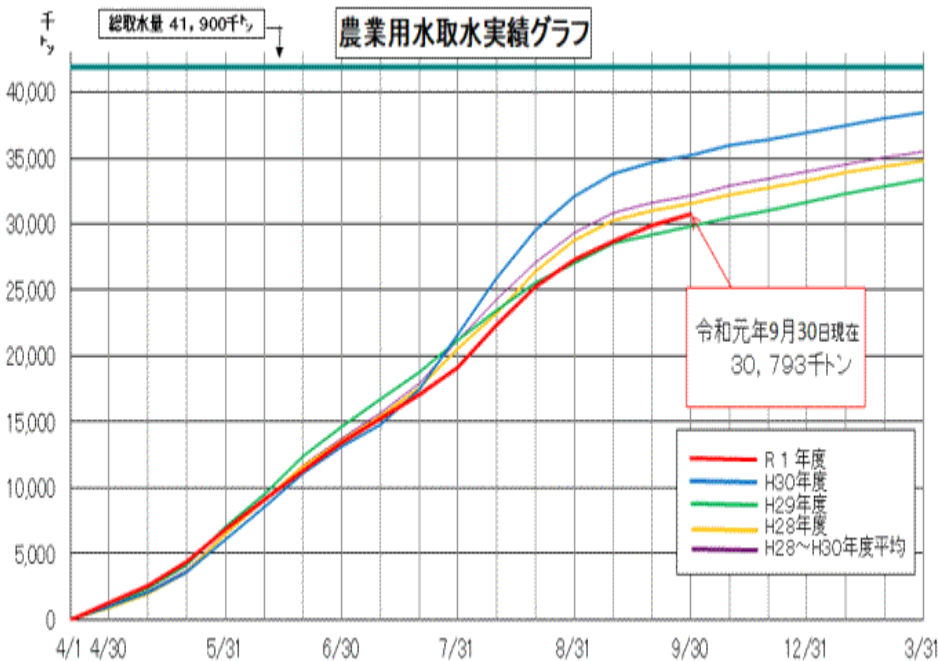
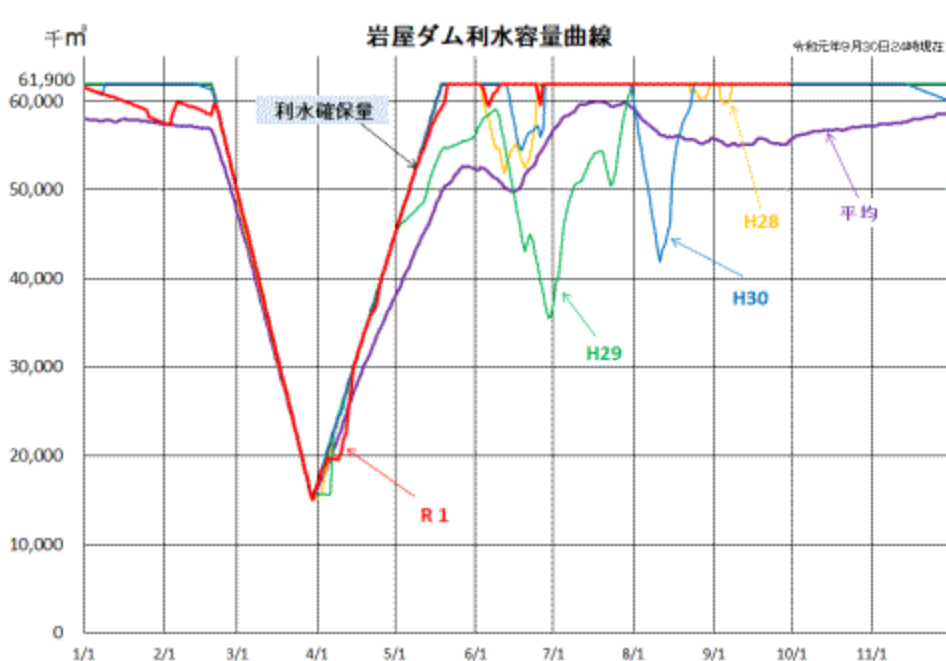
農業用水取水量 3,079万トン (取水率73%) (ともに9月30日現在)

日脚も短くなり、秋の深まりを感じる季節となりました。利水者の皆さんにおかれては、稲の収穫も最終期を迎え多忙の日々をお過ごしのことと思います。

さて、今年の岩屋ダムの利水貯水状況は、4月のVカット回復期に降雨が少なく春先の水を危惧する状況にありましたが、中部電力の協力により中呂導水から利水容量に貯留され、満水予定日の5月20日には96.6%まで回復しました。その後は、周期的な降雨によりほぼ満水の状況で安定的に推移しています。

一方、田植えが始まる4月から稲刈りを終える9月までの灌漑期の農業用水取水量は、9月30日現在、3,079万トン(取水率73%)で、過去3か年の平均取水量より140万トン程少なくなっています。現時点において過去3か年の平均取水実績から来春3月までの取水量を見込み、本年度の総取水量を推計しますと3,411万トン程となり、右岸用水における農業用水の年間総取水量の枠内(4,190万トン)に収まる見込みです。

利水者の皆様方には、引き続き用水施設の適切な管理に心がけて頂きますようお願いいたします。



◇水資源機構新規採用職員が農家体験研修◇

今年度、水資源機構に採用された新採職員のうち2名が、富加町の丸富園芸さん(代表 河野鉄博さん)のお世話で農家体験研修に参加しています。研修は、水利用や農業経営等の実情を知り、ユーザーである農家の視点を理解し将来の業務に役立てようとするのが目的で、期間は10月7日から18日までとなっています。

研修生の皆さんは、農作業に従事することは初めてとのことで、「毎日楽しく体験させて頂いています。この体験を今後の業務に生かしていきたい。」と話してくれました。河野さんは、「研修生には、人と人とが関わり合う姿勢、コミュニケーションの大切さを学び感じ取ってもらえたら。」と笑顔で語っておられました。



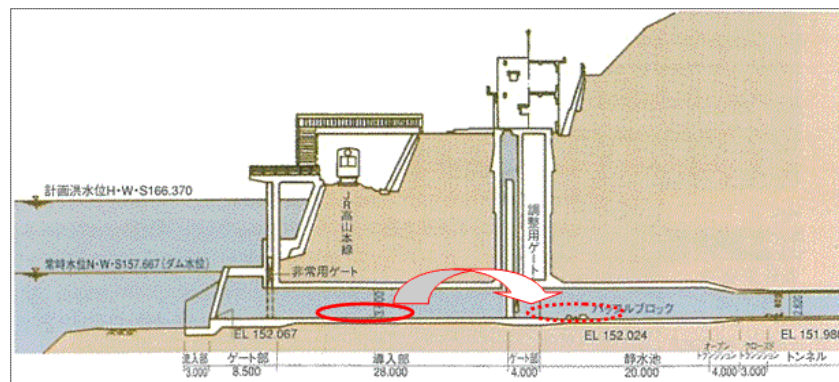
河野さん(中央)と研修生の櫻井さん(左)と和田さん(右)

◇白川取水施設の土砂流下とフラッシング操作を実施◇

9月26日、水資源機構木曽川用水総合管理所美濃加茂管理所では、白川取水施設の土砂流下とフラッシング操作を実施しました。白川取水施設の非常用ゲートと調整用ゲート間に堆積した土砂は、除去作業が困難なため調整用ゲート下流まで人力により移動させフラッシング操作により土砂を流下させるものです。

今回、白川取水口部に堆積した土砂の量は約19m³で、土砂の多くは途中の神淵沈砂池に溜まりました。

※フラッシング操作とは、白川取水施設の非常用ゲートと調整用ゲートの開閉を数回繰り返し堆積した土砂を流下させる操作です。



白川取水施設断面図

※農業用水情報は今月号をもって休刊とさせていただきます。令和2年4月より再び発刊させていただきますので宜しくお願いします。